



プロジェクト名称

旧山古志村の未来を考えるプロジェクト

プロジェクト活動概要

本プロジェクトは千年の伝統を持つ新潟県長岡市旧山古志村における震災復興支援活動である。2004年10月23日に起きた新潟中越地震で全村避難を経験した山古志村の復興事業として、山古志に牧場を作り観光地にしていったらどうかと考えたアメリカコロラド州の牧場のオーナーが村にアルパカを寄贈。この話をきっかけに、建築

学科の学生として村の復興活動の協力を始める。私たちはものづくり・まちづくりを学んでいるが、実際に活動として現地に行く授業や機会が無い。知識・スキルを実際の現場でどのように生かして行くべきなのかを学びたい！という強い意志のもと、村の支援を通して日々勉強に励んでいる。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年10月1日～12月31日

●芝浦祭 屋台出店

昨年に引き続き、山古志村の郷土料理「山古志汁」の販売を行った。

山古志汁とは、山古志村で穫れる神楽南蛮を使用した神楽南蛮味噌を、鶏団子に入れて両面を焼き、たくさん野菜と一緒に煮込んだお味噌汁。

昨年販売したときにとっても好評だったので、今年はさらに作る量を増やして販売したが、嬉しいことにそれを上回るお客さんが食べに来てくれた。

今年は汁だけでなく、鶏団子に使用している神楽南蛮味噌を山古志村から仕入れ、店頭販売した。たくさんの方が山古志村に興味を示してくださり、さらに昨年度の活動を見て山古志村に実際に足を運んでくださった人の声も聞くことができた。毎年少しずつ活動を広げることで、山古志村に人が訪れ、村が明るく元気になっているのを実感した。



今後の活動計画、目標、意気込みなど

現在、山古志アルパカ村のリニューアルの計画を進めている。新たにできたアルパカ小屋の壁のデザインや、牧場周辺の整備を含め、学生の力でどのようにしたらより良い牧場ができるか話し合いを重ねている。

山古志村は豪雪地帯であり、冬期は村に立ち入ることが困難であるため、現地に行って調査することはできないが、大学でミーティングを重ねて春にプレゼンテーションできるように目標を立てている。